未来をひらく「聞き書き」の力

The 15th anniversary of Kikigaki-Koshien

3/18（土） 第15回聞き書き甲子園フォーラム

3/19（日） 15周年記念イベントPart1
ぼくらのアクション―それは「聞くこと」からはじまった―

3/20（月・祝） 15周年記念イベントPart2
「聞き書き」の可能性―新たな価値の探求―

会場：**東京大学弥生講堂一条ホール**

主催：聞き書き甲子園実行委員会
農林水産省／文部科学省／環境省／公益社団法人国土緑化推進機構
公益社団法人全国漁港漁場協会／全国内水面漁業協同組合連合会
認定NPO法人共存の森ネットワーク

森とともに生きてきた人々の言葉に耳を傾けよう。そして、私たちの足元をみつめよう。そこから、あなたの一歩がはじまります。

2002年春、全国の高校生100人が、森とともに生きてきた名人を訪ね、その知恵や技、生き方を「聞き書き」する「聞き書き甲子園」がはじまりました。高校生が出会う「名人は、伝統を受け継ぎ、農山漁村で生きてきたご年配の方がたです。林業、炭焼き、木工職人、漁師など、その職種はさまざま。一方、高校生の多くは、サラリーマン家庭で、都会に暮らしています。生まれ育った時代も環境も異なる二人が、「聞き書き」を通して出会います。

「聞き書き」は、相手の話し言葉だけで文章をまとめる手法です。高校生は、二人の対話をすべて録音し、一字一句、書き起こして作品を仕上げていきます。

「聞く」ことから得られるのは、いわゆる知識だけではありません。それは含蓄に富んだ知恵であり、人生そのものです。それは、高校生が未来を生きる指針となります。

「聞き書き甲子園」がはじまって15年。高校生100人×名人100人の出会いは、延べ1500の「聞き書き作品」になりました。「聞いただけで終わりにしたくない」と考えた高校生は、さまざまなアクションを展開しています。

15周年という節目に、私たちは、あらためて名人に「聞く」ことの意味を問い直したいと思います。そして、新たな生き方や働き方を模索する「甲子園」の卒業生、各地で「聞き書き」を実践する方々とともに、「聞き書き」がひらく未来の社会をみつめます。

3/18（土） 第15回聞き書き甲子園フォーラム

毎年、全国から100人の高校生が参加する「聞き書き甲子園」。森や川、海の「名人」に「聞き書き」をした彼らは、その出会いから何を得たのでしょうか。「聞き書き甲子園」がはじまった当初から活動を応援いただいている阿川佐和子さんの記念講演とともに、「聞き書き」を終えたばかりの高校たちのホットな体験談をお伝えします。

schedule

- 13:30 主催者挨拶
- 13:40 優秀作品賞・写真賞の発表ほか
- 14:15 記念講演「聞き書き甲子園と私」
- 15:40 体験発表　参加高校生と名人３組が登壇
- 16:45 終了

記念講演：阿川佐和子（文筆家）

2012年に出版され、200万部を超えるベストセラーになった著書『聞く力』。その前書きに「聞き書き甲子園」のことが書かれています。「もはや『跡継ぎなどいらん！この仕事は自分でおしまい！』と豪語する名人たちが『聞いてくれてありがとう』と高校生に感謝を述べる姿を見て、私は涙が出てきました」。夏の研修では、はじめて取材に出かける高校生の背中を押し、年度末のフォーラムでは、現場のエピソードを聞いて、共に笑い、涙する。この15年、ずっと活動を見守ってくださった阿川佐和子さんに、「聞き書き甲子園」の魅力を改めて語っていただきます。

体験発表聞き手：「聞き書き甲子園」講師　塩野米松（作家）

全国各地を旅しながら「聞き書き」を続けてきた作家、塩野米松先生。「森の名手・名人」の選定表彰制度をつくりたいという林野庁の相談を受けて、先生は、高校生による「聞き書き」を提案し、2002年、「聞き書き甲子園」がはじまりました。先生は、「人が生きてきた道は素晴らしいものだ。話しているうちにほとんどの方が、自分の人生もそう卑下したものではなかったと思うようになる。無駄な人生などないのだ」と言います。そして、「真剣に聞き、驚き、喜び、一緒に悲しめる気持ちがあれば、物語は始まる」と、高校生の「聞き書き」を指導してきました。

【会場】
東京大学弥生講堂一条ホール
東京メトロ南北線
「東大前」駅から…徒歩１分
東京メトロ千代田線
「根津」駅から…徒歩８分

【参加費】無料
※ただし、立食パーティーは2000円、ランチ交流会は1000円の参加費がかかります。

【定員】250名（18日は150名）
※先着順で申し込みを受け付けます。

【申込み締切】3月15日（水）
※立食パーティー、ランチ交流会は、3月10日（金）までにお申し込みください。
※定員に達しない場合は、当日のご参加も可能です。

申し込み専用フォーム

【申し込み方法】
FAX、もしくは専用フォームにてお申し込みください。
FAX の場合→「フォーラム申込み」と明記の上、①氏名②電話③住所もしくはＥメール④所属⑤参加希望内容（18日／19日午前／19日午後／19日立食パーティー／20日午前／20日ランチ交流会／20日午後）を記載し、下記宛にお送りください。

【お申込み・問い合わせ先】
共存の森ネットワーク（聞き書き甲子園実行委員会事務局）
TEL:03-6432-6580　FAX:03-6432-6590
E-mail : mori@kyouzon.org

【募金協力・企業寄附】 FamilyMart

【協賛・協力】 トヨタ自動車株式会社／富士フイルムホールディングス株式会社／アサヒビール株式会社／京王電鉄株式会社／佐川急便株式会社／株式会社ティムコ／株式会社トンボ／株式会社長塚電話工業所／BESSフォレストクラブ／株式会社ペネッセコーポレーション／マルハニチロ株式会社／一般財団法人環境文化創造研究所／公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会／公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

【助成】 Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

3/19（日） 15周年記念イベント Part1

ぼくらのアクションーそれは「聞くこと」からはじまったー

「聞いただけで終わりにしたくない」――名人との出会いをきっかけに、「聞き書き」を経験した高校生たちは未来への一歩を踏み出しました。農山漁村に憧れ、通い続ける高校生たち。そして各地にIターン・Jターンした「聞き書き甲子園」のOB・OGたち。地域とつながる、地域で生きる。その可能性や魅力を語ります。

＜午前の部＞

10:00 ドキュメンタリー映画「森聞き」上映

「聞き書き甲子園」に参加し、山で暮らす名人と出会った4人の高校生の物語。ドキドキする出会い、ぎこちない対話。でも彼らは、人生にとって、かけがえのない宝物を、名人から得ることができたのです。その感動を、映画を通して追体験してみませんか。（プロダクション・エイシア製作）

12:10 終了

＜午後の部＞

13:30 オープニングトーク

渋澤寿一（聞き書き甲子園実行委員会委員長）

13:50 トークセッションⅠ

地域とつながる～高校生発！イノベーションの萌芽～

スピーカー：第15回「聞き書き甲子園」参加高校生代表
ゲスト：小川悠（i.club 代表理事）
コーディネーター：工藤大貴（共存の森ネットワーク理事）

14:20 トークセッションⅡ

地域で生きる～名人の想いを継ぎ、これからを生きる～

スピーカー：「聞き書き甲子園」OB・OG代表 能登谷創・愛貴（1期生）
鈴木まり子（4期生）／神保大樹（8期生）
ゲスト：近江正隆（ノースプロダクション代表取締役）
コーディネーター：吉野奈保子（共存の森ネットワーク事務局長）

16:00 終了

※16:30より、ロビーにて立食パーティーあり（希望者のみ／要予約）

聞き書き甲子園 OB・OG

工藤大貴（8期生）
「ふるさと」を楽しくする高校生・大学生チェンジメーカー支援プログラム「ond」事業リーダー。鳥取と秋田で、聞き書きを起点に地域にちらばる魅力を結集するアクションを実践中。

能登谷創・愛貴（1期生）
共存の森ネットワークの活動をきっかけに、新潟県村上市高根にIターン。地元の若者たちとともに「一般社団法人高根コミュニティラボ・わあら」を立ち上げ、空き家活用など集落活性化に取り組む。

鈴木まり子（4期生）
出版会社に勤めたのち、三重県尾鷲市九鬼町へJターン。「地域資源を正しく届ける」（株）YAENにて漁村の暮らしを体験できるゲストハウス「おとや」の運営、漁村をつなぐ「三重漁村リーグ」の事務局を担当。

神保大樹（8期生）
奈良県川上村の地域おこし協力隊として「やまいち市」を立ち上げ、地場野菜の販売などに取り組む。森への想いから、木桶を使った味噌づくりなどのワークショップも開催。

ゲスト

トークセッションⅠ 小川悠（i.club 代表理事）

高校生が、地域への愛着や誇りをもち、地域資源を活用したアイデアを生み出すこと。さらに地域の大人が、高校生のアイデアを新たな価値につなげる一歩を踏み出すこと。そんな高校生発のイノベーションをサポートするi.clubと「聞き書き甲子園」学生スタッフがコラボし、全国100人の高校生の熱い想いを伝えます。

トークセッションⅡ 近江正隆（ノースプロダクション代表取締役）

都会育ちだけど、海が好きで、漁師になった。産地の想いを、直接、消費者に届けたいと考えた。そして今、地域に恩返ししたい、その魅力を子どもたちに伝えたいと活動している。そんな近江さんの歩みは、「聞き書き甲子園」OB・OGとも重なっていきます。一次産業への想い、農山漁村の魅力、そして、これからの夢を語り合います。

3/20（月・祝） 15周年記念イベント Part2

「聞き書き」の可能性ー新たな価値の探求ー

1960年代半ば、アメリカ・ジョージア州でFoxfireと呼ぶ活動が始まりました。高校生が地域の知恵や技術を掘り起こし、本にまとめたのです。「聞き書き甲子園」は、この活動をヒントに始まりました。いま、「聞き書き」は全国各地に広がり、さまざまな分野で実践されています。「聞き書き」は誰を幸福にし、どんな未来を創るのか。その可能性を探ります。

＜午前の部＞

10:00 オープニングトーク

塩野米松（作家／聞き書き甲子園講師）

10:20 トークセッションⅠ

「聞き書き」の広がりーさまざまな分野での実践ー

1）聞くこと・伝えること―民俗学のフィールドから
香月洋一郎（前神奈川大学教授）

2）聞く～ホスピス緩和ケアの現場で～
大嶋健三郎（あそかビハーラクリニック院長）

3）震災とふるさとの継承
市村高志（とみおか子ども未来ネットワーク理事長）

4）地域づくりに生かす「聞き書き」
駒宮博男（地域活性化機構理事長）

※12:20より、ロビーにてランチ交流会あり（希望者のみ／要予約）

＜午後の部＞

13:30 15周年記念講演「アメリカFoxfireの活動とその意義」

スミスーヒルトン（ピエモント大学教授）

14:30 トークセッションⅡ

「聞き書き」の未来ー人と人、人と自然とつなぐー

スピーカー：中井浩一（国語専門塾鶏鳴学園塾長）
田村学（文部科学省初等中等教育局視学官）
阿部健一（総合地球環境学研究所教授）
塩野米松（作家／聞き書き甲子園講師）
渋澤寿一（聞き書き甲子園実行委員会委員長）
コーディネーター：吉野奈保子（共存の森ネットワーク事務局長）

16:00 終了

50周年 Foxfire（フォックス・ファイヤー）

1966年、アメリカ・ジョージア州ラブン郡の高校教師、エリオット・ウィギントンは、生徒たちの学習意欲を高めるために、アパラチアの伝統的な生活技術や知恵を継承する人たちと会い、レポートにまとめるよう提案しました。すると、生徒たちは熱心に取材を行うようになり、それを雑誌にまとめていったのです。その成果は、1972年に「The Foxfire Book」として出版され、国内外から大きな反響を得ました。1974年には、アパラチア地方の民俗文化を継承する拠点として The Foxfire Museum & Heritage Center を設立。Foxfire の取り組みは、教育プログラムとしても評価されており、教材開発や指導者向けセミナーなども定期的に行われています。

15周年 聞き書き甲子園

2002年、「もりのくに・にっぽん運動」の一環として国土緑化推進機構による「森の名手・名人」の選定表彰事業がはじまり、あわせて「聞き書き甲子園」が開催されました。毎年全国100人の高校生が「名人」の知恵や技、心を「聞き書き」し、記録します。「聞き書き」を終えた高校生は、森づくり・地域づくりの活動を立ち上げ、2007年、NPO法人共存の森ネットワークを設立しました。その後、「名人」の選定は海や川の分野に広がり、「聞き書き」の活動は ESD（持続可能な開発のための教育）としても評価されています。ファミリーマートをはじめ複数の企業が、この活動を支援し、協力しています。高校生は誰でもこの活動に応募し、無料で参加できます。

「何か行き詰まったときがあったら、もう一回来ればいいさ。」
―3月19日上映・映画「森聞き」より―

「名人」と出会い、未来へ向かって踏み出す勇気をもらった高校生たち、そして「聞き書き」の活動をぜひ応援して下さい。

聞き書き甲子園 🔍